

研究区分	教員特別研究推進 国際共同研究・国際交流の促進
------	-------------------------

研究テーマ	複数の COIL 活動の実施と参加者の満足度比較調査				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	澤崎 宏一
	研究分担者	所属・職名	国際交流室・室長	氏名	山口 超子
		所属・職名	国際交流室・主査	氏名	高橋 竜
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	澤崎 宏一

講演題目																								
複数の COIL 活動の実施と参加者の満足度比較調査																								
研究の目的、成果及び今後の展望																								
本研究は、本学におけるCOIL活動を継続していくために、調査者が関わるの4つのCOIL活動について参加学生（静岡県立大生）の満足度を調査し比較することを目的とする。4種類のCOIL活動とは、(1) オークランド大学との長期授業間COIL（Oakland）、（2）ノースカロライナ大学シャーロット校との長期授業間COIL（UNCC）、（3）三重大大学留学生プログラムとの中期国内授業間COIL（三重大）、（4）上智大学留学生との短期国内融合型授業外COIL（上智大）を指す。 4つの活動でアンケートを実施し、参加学生は期待・満足度（Positive）や不安度（Negative）に関する質問に5段階評定で回答した。活動前（事前）と活動後（事後）に同一のアンケートを行った。 調査の結果、全体として不安度よりも期待・満足度が大きく上回った。活動の前後を比べると、期待・満足度は両方で差がなかったのに対し、不安度は活動前よりも活動後で有意に下がっていた（図1）。相手校間で比較すると、期待・満足度では学校間の違いが殆どなかったのに対し、不安度では学校間に有意差が見られた（図2）。具体的には、上智大との活動が不安度が最も低く、すべての大学との間に有意差が見られた。逆に不安度が最も高かったのはUNCCで、三重大と上智大との間に有意差が見られた。 これらの結果から、4種類のCOIL活動は特に不安の感じ方において違いが現れたといえる。今後は、違いが見られた原因についても分析しつつ、さらに多くのデータを積み重ねて検証を進めていきたい。																								
図1：平均評定値(Max=5, Min=1) <table><thead><tr><th>Type</th><th>事前</th><th>事後</th></tr></thead><tbody><tr><td>Negative</td><td>2.4</td><td>2.1</td></tr><tr><td>Positive</td><td>4.1</td><td>4.2</td></tr></tbody></table> 図2：平均評定値 (Max=5, Min=1) <table><thead><tr><th>Type</th><th>Oakland</th><th>UNCC</th><th>三重大</th><th>上智大</th></tr></thead><tbody><tr><td>Negative</td><td>2.5</td><td>2.8</td><td>2.1</td><td>1.7</td></tr><tr><td>Positive</td><td>4.1</td><td>3.9</td><td>4.2</td><td>4.4</td></tr></tbody></table>	Type	事前	事後	Negative	2.4	2.1	Positive	4.1	4.2	Type	Oakland	UNCC	三重大	上智大	Negative	2.5	2.8	2.1	1.7	Positive	4.1	3.9	4.2	4.4
Type	事前	事後																						
Negative	2.4	2.1																						
Positive	4.1	4.2																						
Type	Oakland	UNCC	三重大	上智大																				
Negative	2.5	2.8	2.1	1.7																				
Positive	4.1	3.9	4.2	4.4																				